

ジュンゴン骨に関する出土資料の集成 (補遺・1)

Compilation of Excavated Dugong Bones (Supplement 1)

盛本 勲

MORIMOTO Isao

ABSTRACT: This paper aims to add more data to the compilation of excavated dugong bones issued in the last volume of this bulletin. The last paper presented the dugong bone specimens from 103 sites in total. This time, ten more sites are introduced from the Satsunan Archipelago (1), Okinawa Archipelago (6) and Yaeyama archipelago (3), and the total number of the sites becomes 113. Although the major concentration of the sites exists in Okinawa district, two specimens belong to Honshu and Kyushu. Based on the folk records and oral traditions, these exceptions were supposed to have occurred due to stray dugong along the Black Current. An additional example from Satsunan Archipelago, adjacent to southern Kyushu, should support this assumption.

筆者は、縄文時代併行期以降の琉球列島における骨製品の素材や形状の特徴などから、薩南諸島以北の日本列島における鹿角などに対応する骨製品素材として、海棲哺乳類のジュゴン (Dugong dugon) の肋骨などが相当するものと考え (盛本2004b)、研究の端緒として、動物考古学研究の基礎となる遺存骨と製品の出土時期および空間的分布状態の把握を第一の目的として、これらの集成を行った (盛本2004a)。その結果、本州島1、九州島1、奄美諸島5、沖縄諸島79、宮古諸島8、八重山諸島9の計103遺跡よりの出土が確認され、部位ごとの出土量、さらには利用製品の具体的内容が判明し、その多様性と出現頻度の高さが明らかとなった。この内容は、今後の調査の進展に伴って、さらに増えるであろうことは容易に推測できた。

本稿は、旧稿において遺漏があったものや、旧稿作成以後に刊行された発掘調査報告書などからの集成の補遺である。

旧稿において、これらの分布状況からして、棲息域から大きくかけ離れている本州島の愛知県渥美町保美貝塚や九州島の佐賀県唐津市菜畑遺跡例などは、民俗事例や伝承などを (江崎1935)¹⁾等も考慮した結果、フィリピン沖に源流をもつ黒潮にのって迷遊したものであろう、と考えた。今回の補遺では、このことを補強する報告が鹿児島県南種子町一陣長崎鼻貝塚 (縄文晩期) (鹿児島県教委1977, 西中川・久林2004)にあることが判った。

このようなことから、分布の中心は奄美諸島以南の沖縄諸島にあることが判る。そして、琉球列島では、縄文時代前期併行期の野国貝塚群B地点出土の爪形文伴出例を最古とし、以後、近世までの各時代の遺跡よりの出土がある。分布状態をさらに詳細に見ていくと、琉球列島の中でもより棲息域に近い沖縄諸島に分布の中心があり、北限に近い奄美諸島では少ないということが明らかである。この観点に立脚するならば、沖縄諸島に比べてより多いはずの宮古・八重山諸島は、発掘調査事例の少なさということもあり、現段階での出土遺跡数は必ずしも多くない。また、出土量の多い沖縄本島をみた場合 (旧稿: 図4)、出土遺跡の立地は沿岸部、内陸部を問わず出土していることが判る。

今回、上記一陣長崎鼻貝塚以外に、沖縄諸島において7遺跡、八重山諸島において3遺跡の11遺跡を追加することができた。これらのうち、勝連町津堅貝塚が沖縄後期、竹富町仲間第一貝塚が南琉球新石器時代後期に属するほかは、グスク時代に属する遺跡である。

(もりもといさお: 調査課課長)

表1 ジュゴン骨および骨利用製品集成一覧(補遺・1)

()内の数字は点数

番号	遺跡名	時期	出土骨(点数等)	製品(利用部位等)	文献
1	鹿児島県南種子町 一俣崎鼻貝塚	縄文晩期	人魚骨	—	鹿児島県教委1977, 西中川・久林2004
2	今帰仁村今帰仁城跡 (主郭地区)	グスク	歯(1), 上腕骨(3), 肋骨片	骨鏃(3), 器種不明製品(1), 簀子 未製品(2), 未製品(4), 模造品(1)	金武・松田・宮里 編1991
3	石川市伊波城跡	グスク	肋骨(10), 歯(1), 焼骨(5)	—	上原編2003
4	勝連町津堅貝塚	沖縄後期	部位名の記載なし(1:EグリッドII層)	—	池田・後藤2001
5	勝連町平敷屋トウ バル遺跡	沖縄後期	肋骨(18), 左環椎(1), 右環椎(1), 橈骨(1)	—	宮城・東富編2004
6	那覇市首里城跡 (城郭南側地区)	グスク	椎体(2), 棘突起(4), 肋骨片(2)	肋骨利用製品(1), 犬歯利用製品(1)	知念・新垣編2004
7	那覇市首里城跡 (城の下地区)	グスク	後頭骨(1)	不明(第39図6は, 肋骨利用製品の 可能性あり)	羽方編2004
8	那覇市銘苅直禄原 遺跡	グスク(13~15C の低湿地遺跡)	肋骨?片(1), 不明(1)	骨錐状製品(肋骨利用)(1)	樋口他2003
9	佐敷町佐敷グスク	グスク	部位及び数量不明(僅少)	—	当真編1980
10	竹富町仲間第一貝 塚		肋骨片(少数), 嵩個体分の頭蓋, 歯, 四肢 骨	—	滝口編1960, 金子 1983
11	竹富町慶来慶田城 遺跡	グスク~近世	鍛冶屋跡:後頭顆L(1), 椎体・脊弓片(1), 肋骨(L:1, 不明(1)), 翁屋敷跡:椎体:椎体 棘突起(1), 肋骨片(4), 破片(1), 仮薩摩 在番跡:肋骨片L(1)	—	金城他1997
12	竹富町上村遺跡	グスク	肋骨片(1)	—	大城他1991

註

1) 江崎によれば, 日本列島内での例外的な迷遊例の記録として, 宮城県油津付近でも漁れたことがあるという。

<参考文献>

江崎悌三, 1935: 八重山遊記-4-(ザンの魚), ドルメン, 第4巻第4号。pp305~311, 岡書店, 東京。

盛本 勲, 2004a: ジュゴン骨に関する出土資料の集成(暫定), 沖縄埋文研究 2, pp23~42, 沖縄県立埋蔵文化財センター, 沖縄県西原町。

盛本 勲, 2004b: 奄美・沖縄諸島の骨角牙製品, 沖縄考古学会2004年度研究会発表要旨「後期文化の様相」, pp17~21, 沖縄考古学会, 宜野湾。

【集成(暫定)(補遺・1)に関する発掘調査報告書等一覧】

池田榮史・後藤雅彦, 2001: 第1節 津堅貝塚, 宮城伸一編: 町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成11・12年度 津堅貝塚 平敷屋古島遺跡 浜貝塚, pp5~18, 勝連町の文化財第21集, 勝連町教育委員会, 沖縄県勝連町。

上原 静・編, 2003: 伊波城跡 史跡整備事業計画策定に伴う遺構調査概要, 石川市文化財調査報告書第5集, 石川市教育委員会, 石川。

大城 慧・他, 1991: 上村遺跡-重要遺跡確認調査報告書-, 沖縄県文化財調査報告書第98集, 沖縄県教育委員会, 那覇。

鹿児島県教育委員会, 1977: 鹿児島県市町村別遺跡地名表, 鹿児島。

金子浩昌, 1983: 狩猟対象と技術, 加藤晋平・小林達雄・藤本強編『縄文文化の研究』, 2, pp96, 雄山閣, 東京。

金武正紀・松田朝雄・宮里末廣・編, 1991: 今帰仁城跡発掘調査報告Ⅱ, 今帰仁村文化財調査報告書第14集, 今帰仁村教育委員会, 沖縄県今帰仁村。

金城 透・他, 1997: 西表島 慶来慶田城遺跡 -重要遺跡確認調査-, 沖縄県文化財調査報告書第131集, 沖縄県教育委員会, 那覇。

滝口 宏・編，八重山の考古学，『沖縄八重山』，早稲田大学考古学研究室報告第7冊，pp100～173，早稲田大学考古学研究室，東京。

当真嗣一・他，1980：佐敷グスク-佐敷グスク発掘調査報告-，佐敷町教育委員会，沖縄県佐敷町。

西中川駿・久林朋憲，2004：九州の縄文遺跡出土の哺乳類遺体，鹿児島考古，第38号，pp53～64，鹿児島県考古学会，鹿児島。

樋口麻子・他，2003：銘苅直禄原遺跡-天久公園整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 Ⅲ，那覇市文化財調査報告書第57集，那覇市教育委員会，那覇。

宮城伸一・東當美和編，2004：第2章 調査の記録 第1節 平敷屋トウバル遺跡，町内遺跡発掘調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 平成13・14年度 平敷屋トウバル遺跡 津堅島キガ浜貝塚 津堅貝塚南風原古島遺跡，pp5～86，勝連町の文化財第22集，勝連町教育委員会，沖縄県勝連町。



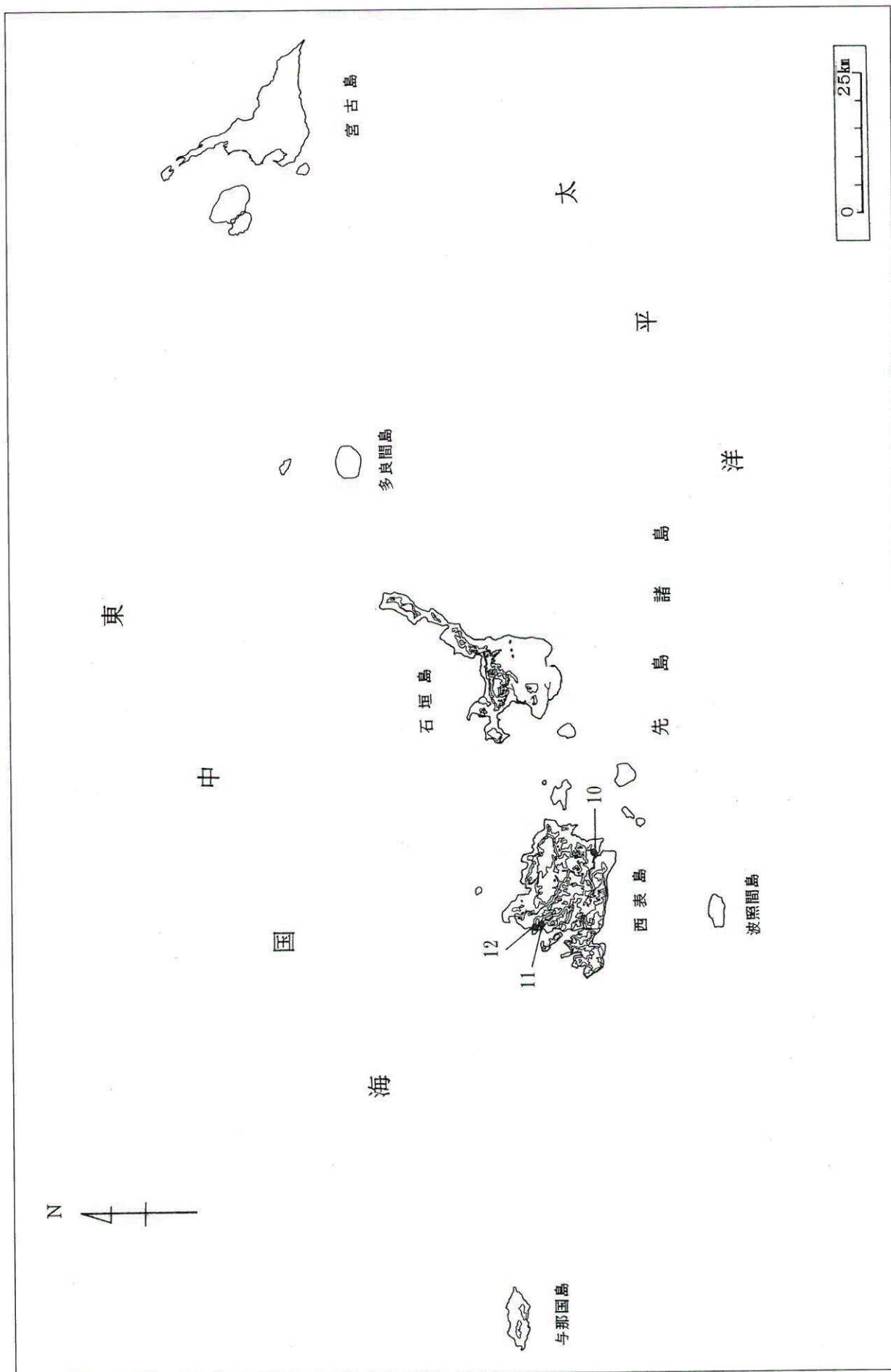


図3 ジュゴン骨等出土遺跡分布図・3 (宮古・八重山諸島)